

児童館での臨時子ども食堂開催について

東京都 一般社団法人フードバンク八王子 / 理事 川久保 美紀子

2019年10月に発生した台風19号は八王子市内にも大きな被害をもたらし、私たちが運営する「八王子食堂ネットワーク」でも、浅川児童館で「移動子ども食堂」を開催しました。子どもたちのために何か、という声に、市の「子どものしあわせ課」と児童館が動き、私たちにも臨時開催の打診があった次第です。私たちがすぐに開催日を決め、協力者を募り、チラシやホームページで告知しました。

そして開催した2日間には、延べ100人の子どもたちが訪れ、豚汁やご飯を食べてくれました。「ごちそうさまでした」と言いに来てくれる子もいて、本当に子ども食堂をやって良かったと思いました。

災害時、普段から多くの食数を作り慣れている子ども食堂は、行政や地域と連携することで、被災地域を応援することができるようになりました。また普段からの連携が大事、ということも今回の活動を通して学ぶことができました。

避難生活で考える子どもの心のケア

福島県 ふくしま子ども食堂ネットワーク / 代表 江川 和弥

東日本大震災後、私が住む会津地方にも多くの方が避難してきました。その中で、私は避難中の子どもたちに遊びと学びを提供していました。

避難所生活は、子どもに限らず多くの方がストレスを抱えます。静かに過ごしたい人もいるため、子どもは元気に走ったり、大声で笑ったりすることができません。時には親に怒られ、大きなストレスを抱えてしまうこともあります。

発達障害を抱える子どもは、日常とは異なる環境での心の負担がとても大きいため、特に安心できる関係が必要です。普段と大きくかけ離れた生活を送るとき、子どもにとって遊びと学びはいつもの生活に近づける大切なツールなのです。

子ども食堂は平時からいろいろな人と関わりながら、食事・遊び・学びができる場所です。災害時には炊き出し拠点になる他、子どもも大人も関係なく、横の繋がりで安心できるよう普段からの環境づくりが大切だと思います。